

#### 4. 流体継手付ギヤードモータ

EF-H形 出力 4極…2.2～150 kW

6極…2.2～110 kW

EF（またはSEF）形ギヤードモータの減速部とモータの間に、流体継手を組み込み一体化したものです。

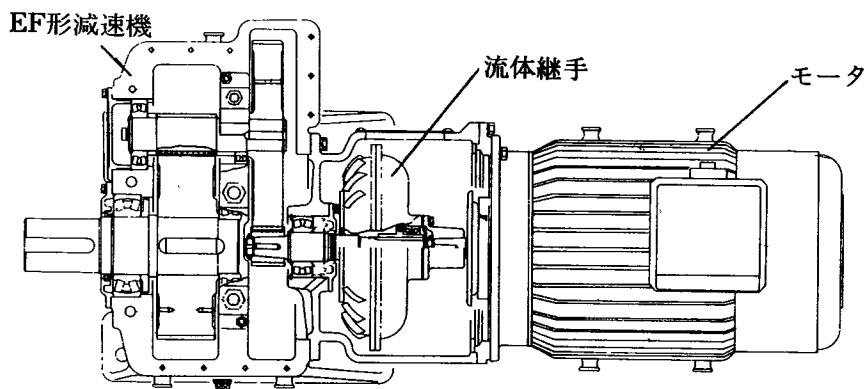
減速機・流体継手・モータを別々に取りつけたものに比べて、寸法的にも小さく、取扱いも標準ギヤードモータ同様いたって簡単です。

すなわち、流体継手取付け時の面倒な心出しの手間がはぶけ、使用中に心狂いを生じる心配もなく、据付け場所も小さくて済みます。

#### 構造

モータは標準ギヤードモータ用のものを使用しています。

減速部も標準品と同一ですので、既設のEF形ギヤードモータを流体継手付に改造することも、逆に、EF-H形の継手を取外してモータ直結形（EF形）にすることもできます。



第20図 EF-H形流体継手付ギヤードモータ内部構造図

#### 用途

標準形ギヤードモータの特長と流体継手の作用により、各種産業機械に広く使用でき、優れた効果を発揮します。

例 ベルトコンベヤ（始動ショック緩和によるベルトの保護、始動電流制御）

バケットエレベータ（衝撃緩和による機械・モータ・減速機の保護）

#### 流体継手の効果

##### 1. 始動が容易・円滑になります。

始動時にモータの高トルクが利用できるため、始動が楽に行えます。

また、出力軸トルクは0から次第に増加してゆくため、反抗負荷にわずかに打ち勝つ加速トルクにより円滑な始動ができます。たとえばベルトコンベヤ始動の場合は始動張力にわずかに打ち勝つ加速トルクによって、徐々に円滑な始動ができます。

モータは被動機と無関係に始動し、速やかに全速に達するので、ピーク電流の流れる時間を短くします。

##### 2. 回転が円滑に行われます。

流体を媒体として動力を伝達しますので、振動・衝撃荷重を緩和します。

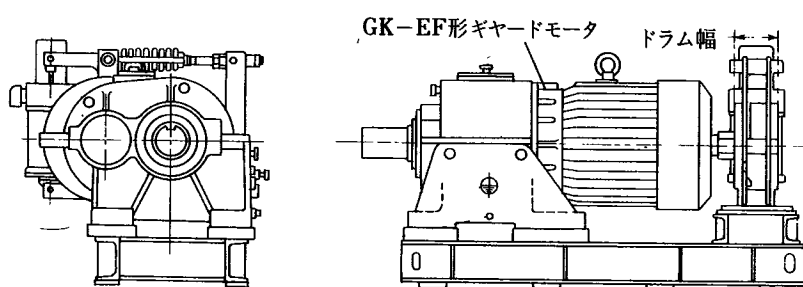
##### 3. 過大な荷重がかからないように保護します。

過大な荷重がかかると、継手内ですべりが生じて、被動機・減速機・モータに規定以上の負荷が作用しないように保護します。

#### 5. その他のギヤードモータの例

##### 1. ドラム形ブレーキ付ギヤードモータ（A）

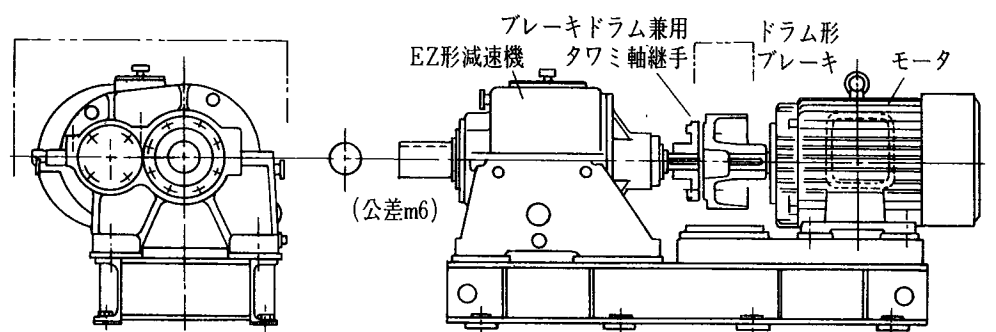
（モータわく番号 225 以下）



第21図

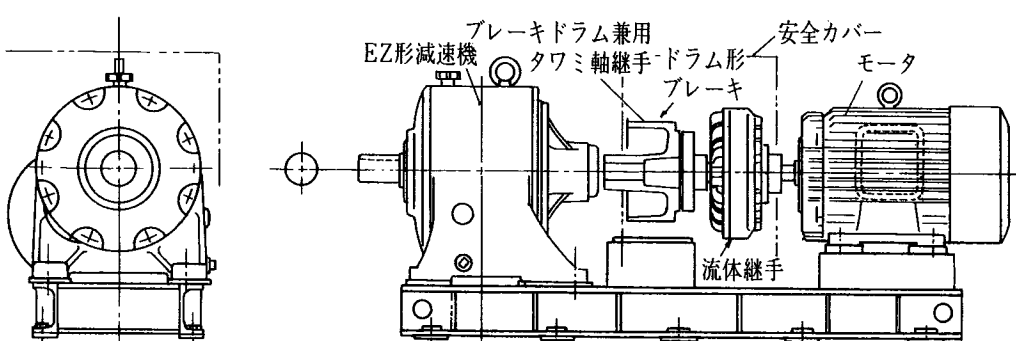
##### 2. ドラム形ブレーキ付ギヤードモータ（B）

（モータわく番号 250 以上）



第22図

##### 3. 流体継手及びドラム形ブレーキ付ギヤードモータ



第23図